

演題

バリアフリー 観光で、集客増と まちづくりを実現

行政・企業・市民の協働が成功のカギとなる

平成27年

1月19日(月)

入場無料

14:00~16:00
(開場 13:30)

ホルトホール大分
大会議室

講演者

なか むら はじめ
中村 元氏

(特)日本バリアフリー観光推進機構 理事長
(特)伊勢志摩バリアフリーツアーセンター 理事長
(株)中村元事務所 代表取締役

1956年(昭和31年)三重県嬉野町生まれ。鳥羽水族館副館長を経て、水族館プロデューサーとして、新江の島水族館の企画等を手がけた後、サンシャイン水族館リニューアルのプロデュースで想定以上の集客を成功させた。

また、観光産業を、顧客と地域住民の視点から再生開発することを提唱し実践。

特に、障がい者や高齢者をマーケットと想定した『伊勢志摩バリアフリーツアーセンター』による観光再生は、観光産業・福祉・都市整備を横断的にとらえ、集客をあげている日本で初のシステムとして注目されている。

現在は、日本バリアフリー観光推進機構の代表として、全国のバリアフリー観光を指導している。



●主催：NPO法人自立支援センターおおいた

●問い合わせ先：NPO法人自立支援センターおおいた

〒874-0942 大分県別府市千代町13-14 ユニバーサルマンション2F
TEL：0977-27-5508 FAX：0977-24-4924 E-mail：ud444@jp700.com

◆後援：大分県／別府市

一般社団法人 別府市観光協会
別府市旅館ホテル組合連合会
NPO法人別府八湯温泉道名人会
NPO法人ばりあな

『パーソナルバリアフリー基準』は、 旅行者の満足に焦点を当てたバリアフリーの考え方です。

『パーソナルバリアフリー基準』とは、身体に障がいのある人や、高齢によって身体が不自由な人をはじめとするさまざまな旅行弱者の、旅行の好みや能力を基準にして、誰もが満足し楽しめる観光を実現しようという考え方です。

そのため、施設のバリアフリー調査および、旅行者からの相談対応には、その主たる客層である障がい者や介助者による『専門員』が中心となって運営することを基本としています。

バリアフリー調査においてはバリアの全てを明らかにしていく調査方法。相談においては旅行者のやりたいことを優先する考え方によって、さまざまなタイプの旅行者の、それぞれ最も適した観光ルートや手段、宿泊施設の手配などを行います。

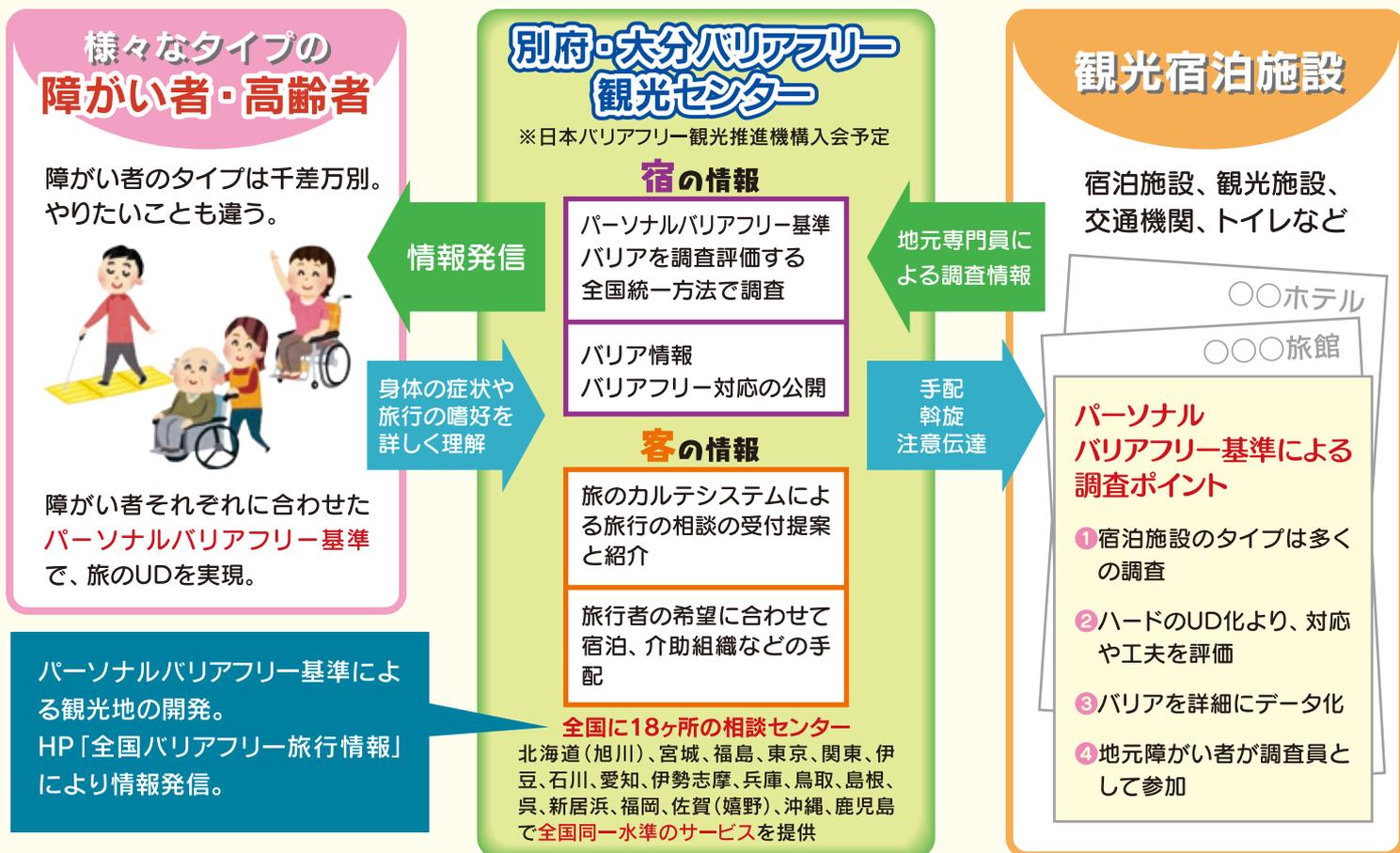
また、観光施設へのバリアフリー対応のアドバイスにおいては、全ての障がい者に対応する画一的なハードのUD化を求めることなく、個人個人の満足度が大切にされるべき本来の「観光」を優先することと、多様な旅行者と多様な施設のマッチングを基本としたアドバイスにより、観光地全体によるユニバーサルデザインを実現します。

パーソナルバリアフリー基準では、体が不自由で観光地に不案内な旅行者を、旅行者と同じ目線の地元の方がサポートするという形をとっているため、利用者と観光事業者の双方が大きな満足を得られるのです。

パーソナルバリアフリー基準は、日本バリアフリー観光推進機構が、全国のバリアフリー観光地の統一基準として採用しており、北海道から沖縄に至る全国のバリアフリー観光地相互の送客も実現しています。

日本バリアフリー観光推進機構

パーソナルバリアフリー基準による旅行相談



問い合わせ先

NPO法人自立支援センターおおいた

〒874-0942 大分県別府市千代町13-14 ユニバーサルマンション2F

TEL:0977-27-5508 FAX:0977-24-4924 E-mail:ud444@jp700.com

メールでも申込受付を
しております。